

# クリーンラーチを用いると下刈り期間を短縮できるか？

グイマツ雑種  $F_1$  ( $F_1$ ) の中でもクリーンラーチ (CL) は植栽後の初期成長がカラマツ (JL) に比べて速いことが報告されており、造林作業で最もコストがかかる下刈り作業の軽減 (下刈り期間の短縮) が期待されています。CL は本当に下刈り期間を短縮できるほどの樹高成長量を示すのでしょうか？このことを確かめるため、CL と  $F_1$ 、JL のコンテナ苗 (容量 150cc) を単木混交させて植栽した試験地を造成しました (写真-1)。試験地付近のカラマツ人工林では、通常3年間の下刈りが行われているため、本試験でもそれに準じて植栽当年から3年次まで下刈りを行いました。



写真-1 植栽に用いたコンテナ苗 (左) と試験地の造成風景 (中、右:浦幌町)  
テープの色の違いで樹種を識別

植栽後の樹高の推移を種間で比較したところ、2年次におけるCLの樹高 (中央値) は130cmであり、植栽木の75%以上が樹高95cm以上に達していました (図-1)。一方、2年次の $F_1$ 、JLでは樹高 (中央値) が100cmに達しておらず、高さ95cm以上の植栽木の割合はともに50%を下回っていました。 $F_1$ 、JLの樹高が2年次のCLと同程度の水準に達したのは3年次でした。試験地における下刈り前 (6月中旬)の主要な競合植生はミヤコザサやフキであり (写真-2)、その平均植生高は75cmでした。また、高さが95cmを超える植生は少なく、樹高が95cm以上に達した植栽木では、梢端部が競合植生によって被覆されずに露出しているものがほとんどでした。これらのことから $F_1$ 、JLでは3年次までの下刈りが必要である一方、CLでは下刈りを2年次で完了できると判断できます。

地域によって競合植生の高さや種類が異なる可能性があるため、今後、広域多地点で植栽木と競合植生との関係を調査し、CLに対応した初期の施業モデルを構築する予定です。 (経営G 大野泰之)

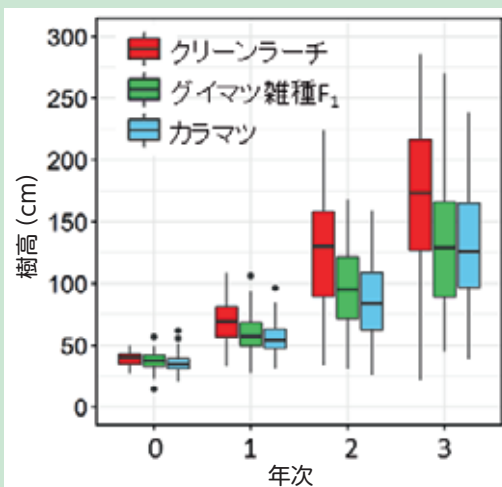


図-1 植栽木の樹高の推移  
0は植栽時を示す。



写真-2 下刈り前の競合植生 (左:ミヤコザサ、右:フキ)  
6月中旬撮影

本研究は農林水産省による戦略的プロジェクト研究推進事業「成長に優れた苗木を活用した施業モデルの開発 (18064868)」の支援を受け、三井物産フォレスト株式会社と共同で試験地を造成しました。